

逞筆模試

■第三回

七月二十一日

解答難度指数 1.68

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。①～⑩は音読み、⑪～⑳は訓読みである。

(30)
1×30

- ① 流行ハヤ止トして滄桑の変を危ぶむ。
- ② 耆チ艾キの箕裘を承けて追孝とす。
- ③ 一同イツドウ鼻盧ヒョロの成すに瞠乎たり。
- ④ 續ツグ緡ヒとして熙朝の徽幟キウ此コノに在り。
- ⑤ 緑林白波を坊門にて邀マツ研ミせん。
- ⑥ 城狐を劾ツツして君側を清む。
- ⑦ 袞竜の袖に逼ツマ逼ツマして身を潜む。
- ⑧ 扁舟に臥して匏樽ホウソンを尽くした。
- ⑨ 斯の遺構にも秘府の鑰カギ牡ウシはなし。
- ⑩ 虞人粟を継ぎ、庖人肉を継ぐ。
- ⑪ 斂葬の儀は癸ミ巳ノに行われた。
- ⑫ 我ガ疖ウは胃潰瘍に効能がある。
- ⑬ 自由平等の大旃テを翳す。
- ⑭ 端嚴たる娃鬢ワカマ、白妙の尊容。
- ⑮ 身を惜しまず栖鶻シヤクの危巢キサウに攀ヒづ。
- ⑯ 全く紺繡コンジュウのない錦綉の文章。
- ⑰ 密勿ヒツブツとして雛ヒナを鞠育す。
- ⑱ 午餉ウヌの桐トウの音が四隣の寂寞を破る。
- ⑳ 奉公にゆく誰彼や貝カ回ヘし。
- ㉑ 陽炎が立ち、土熱れの上がる猛暑日。
- ㉒ 老大家に褒められて脂下シヤがつっている。
- ㉓ 家眷ケケンに先妣の墓所に参る。
- ㉔ 発酵した醪醬油を漉す。
- ㉕ 門を嚙カじて啓ヒくなきこと有り。
- ㉖ 允インに厥ケルの徳を迪ヒむ。
- ㉗ 不調法者の楫カ取リに吝シかでない。
- ㉘ 粳ネを常食の米とする。
- ㉙ 縉紳欣然として之を鬻ウぐ。
- ㉚ 礼楽を説ツび詩書を敦ツくす。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。㉑、㉒は国字で答えること。

(40)
2×20

- ① 指輪に宝石をカカニニウウする。
- ② 今後の方針を漏ルれなくルルセセする。
- ③ 瞬時にシシカカンンを見分ける鑑定士。
- ④ ソソロロにして短兵急な作戦だ。
- ⑤ 互いにシシノノキキを削り学業の覇を争う。
- ⑥ テテンンシシ板イに蝶を固定する。
- ⑦ 池魚はテテイイソソを免れず。
- ⑧ タイセタイセキキする二つの主義が同居する。
- ⑨ 離下より仰げばワワビビしき深窓の美女。
- ⑩ 指名手配犯はドドウウアアククな人相だ。
- ⑪ 諸侯のシシジジンンに切々と答申する。
- ⑫ 大粒のシシユユウウに襲われる。
- ⑬ 輔弼の臣は儲君の怠惰をフフウウカカンンした。
- ⑭ 礼状を認めてフフウウカカンン紙シを貼る。
- ⑮ 五寸の鍵カカイイココウウを制す。
- ⑯ 浩瀚たるカカイイココウウ鳥跡トに压倒される。
- ⑰ 偽証して被告人をキキョョククビビした。
- ⑱ 海胆や海鼠はキキョョククビビ動物モノに属する。
- ⑲ 子供のシシツツケケに喧しい家だ。
- ⑳ 直径一セセンンチチメメーートトルの硝子管。

(三) 次の1～5の意味を的確に表す語を、次の□から選び、漢字で記せ。

(10)
2×5

- ① 四十八歳。
- ② ねごと。たわごと。
- ③ 立ったまま上体を深く倒してする礼。
- ④ 小児を抱くこと。
- ⑤ 日本語で「シヤ・チヨ」などの音節のこと。

きはい・けいせつ・ぜいげん
そうねん・はつおん・びご
ようおん・ようじゆ

(四) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。

(30)

問1
次の四字熟語の(①～⑩)に入る適切な語を次の□から選び漢字二字で記せ。

(20)
2×10

- | | | |
|--------|----|-----|
| (①) 心離 | 南蛮 | (⑥) |
| (②) 青眼 | 梅妻 | (⑦) |
| (③) 画塗 | 竜頭 | (⑧) |
| (④) 聴従 | 百折 | (⑨) |
| (⑤) 斬釘 | 茅屋 | (⑩) |

えんべん・かくし・げきしゆ
げきぜつ・げんせき・さいてん
すいはん・せつてつ・ふとう
ぼうごう

問2
次の①～⑤の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。

(10)
2×5

- ① 顔かたちがやつれて生気がないこと。
- ② 自分は平凡な人間という謙遜。
- ③ 些細なことでおじけづく。
- ④ あちこちから意見の出てくること。
- ⑤ 友人の来訪を手厚くもてなすこと。

瀧纒濯足・七嘴八舌・鞠躬尽瘁
形容枯槁・影駭響震・斗量帚掃
咄咄怪事・冒雨剪韭

(五) 熟字訓・当て字の読みを記せ。

- | | | |
|------|--------|------|
| ① 香魚 | ⑥ 燭魚 | (10) |
| ② 紙鳶 | ⑦ 西蔵 | 1×10 |
| ③ 首途 | ⑧ 看麦娘 | |
| ④ 栄蘭 | ⑨ 三稜草 | |
| ⑤ 珠鷄 | ⑩ 側金盞花 | |

(七) 次の①～⑤の対義語、⑥～⑩の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

- | | |
|-------|------|
| ① 万斛 | ⑥ 鳩尾 |
| ② 誘掖 | ⑦ 遭逢 |
| ③ 醇厚 | ⑧ 慮外 |
| ④ 窮乏 | ⑨ 頭彰 |
| ⑤ 三十棒 | ⑩ 龜裂 |

(20) 2×10

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分で漢字で記せ。

- ① 群玉ヨウダイの仙境。
 ② シモク大なれど視ること鼠に若かず。
 ③ テツシヨを磨く。
 ④ 杙を以てエイと為す。
 ⑤ ハモも一期、海老も一期。
 ⑥ 明日はエンノの塵ともならばなれ。
 ⑦ クンケン壅がざれば終に江河となる。
 ⑧ 志士はコウガクに在るを忘れず。
 ⑨ 竜は初夜後に吟じ、虎はゴウウゼンに嘯く。
 ⑩ ヤスリと薬の飲み違い。

(20) 2×10

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

- ア ① 荒遐…② 遐か
 イ ③ 無疆…④ 疆り
 ウ ⑤ 捍禦…⑥ 捍ぐ
 エ ⑦ 豊悴…⑧ 悴れる
 オ ⑨ 仆偃…⑩ 仆れる

(10) 1×10

(九) 文章中の傍線(1.～10.)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30) 2×10
1×10

A 朕惟うに、方今文日に**ア**就り、月に将み、東西相倚り、彼此相濟し、以て其の福利を共にす。朕は、爰に益々国交を修め、友義を悖くし、列国と与に永く其の慶に頼らむことを期す。顧みるに、日進の大勢に伴い、文明の恵沢を共にせんとする、固より内国運の発展に須つ。戦後日尚浅く、庶政益々更張を要す。宜しく上下心を一にし、忠実業に服し、勤儉産を治め、惟れ信、惟れ義、醇厚俗を成し、華を去り実に就き、荒怠相誡め、自強息まざるべし。抑々我が神聖なる祖宗の遺訓と、我が光輝ある国史の成跡とは、**1.ヘイ**として日星の如し、**イ**寇に克く格守し、**ウ**深潭の誠を**エ**嗣さば、国運発展の本、近く斯に在り。朕は方近の世局に処し、我が忠良なる臣民の協翼に**2.イシヤ**して、維新の皇猷を**3.カイコウ**し、祖宗の威徳を対揚せむことを庶幾う。爾臣民、其れ克く朕が旨を体せよ。

(明治天皇の詔書「戊辰詔書」より)

B 今茲春、考試甫めて訖わり、僚友相誘いて、墨西の超然楼に遊ぶ。(…中略…三廻の里に抵れば、則ち花木尚三株、欣欣として人を邀う。古歌に咏ずる所、芳山の口、一樹先導する者は、想うに此と趣を同じうすべし。行くこと数百歩、樹滋多く、花滋穠し。清流碧嶂、左右に映帶す。其の対岸は、楼閣高低、**オ**緑藪翠楊の表に隠見す。所謂超然楼は、応に此の際に在るべし。時に游舫有り、妓を載せて其の下を過る。因つて戯れに口占して曰く、「昨日楼頭李杜に会い、今日楼下楊妃を見る。」と。凡そ墨堤十里、両畔皆桜、淡紅濃白、歩に隨うて人に**4.コ**ぶ。遠き者は招くが如く、近き者は語らんと欲す。間少曲折有り。第一曲自り、東北に行くこと三四折、以て木母寺に至りて窮まる。曲曲回顧すれば、花幔地を蔽い、恍として路無きかと疑わる。排して進めば、則ち白雲の空涌するが如く、杳として**5.サイガイ**を見ず。低回の頃、肌骨皆香しく、人をして蒼仙に化せんと欲せしむ。既にして夕陽林梢に在り。落霞**カ**飛翹、垂柳疎松の間に閃閃たり。長流**6.コンコン**として、潮満ち石鳴る。西のかた芙蓉を仰げば、**7.トツコツ**万仞。東のかた波山を瞻れば、**8.スイカン**拭うが如し。また字内の絶観なり。先師**カ**叟嘗て予に語る、「吾京師及び芳山の花を**9.レキラン**せり。然れども風趣墨水に及ぶ者莫し。」と。洵に然り。

(塩谷岩陰「游墨水記」より)

C 余嘗て前代風氣の迹を攷うるに、亦以て其の故を**キ**釋ねて、其の勢を揣る可き歟。蓋し漢学の我が朝に入るは、応神に**ク**翺まる。典章・事為、粲然として此に由つて観る可し。中ゴころ敏達に**ハ**あり。頗る奔波を極むと曰うと雖も、而も仍一隅に止まる。然る後百王推す可き也。治者・被治者の交渉自り、以て夫婦の倫・父子の衷に**ケ**歸るまで、凡そ**10.シヤシヨク**・民人に綱法たる所以の者は、皆孔氏の教えに原つきて、**コ**畔く或る莫し。

(森田思軒「文明東漸史外篇序」より)